

## 名作を読んでみよう

### 『ツバメ号とアマゾン号』

アサー・ラナム/作 神宮輝夫/訳 岩波書店 (Y933 ラ)



父からの返信電報は、「オボレロノロマハノロマデナケレバオボレナイ」。それは、冒険への許可だった。4人兄弟は夏休みの13日間を無人島で過ごす。自分たちの帆船「ツバメ号」を操縦し島へ渡り、テントを立ててキャンプ生活を送る。憧れるほど自由な生活。島の探検や、別の家族の「アマゾン号」との対決。嵐の襲来。不便さや苦勞から生まれる楽しさに、冒険の大きな満足感を得る。40年間読み継がれている名作。



こちらもおすすめ

『こころ』 夏目漱石/著 集英社 (Y913 ナ)

☆出版社からの許諾を得て表紙画像を掲載しています

新潟市の図書館のHPから

ティーンズコーナーで展示中の本のリストが見られます。

「資料のご案内・展示」→「各図書館の展示コーナー」

→「ほんぽーと中央図書館」→「2階 ティーンズコーナー」

**チェックしてみてね!**



2017年3月発行



〒950-0084 新潟市中央区明石2-1-10

電話 025-246-7700

【パソコン用】<http://www.niigatacitylib.jp>

※スマホサイトのURLは上記パソコンサイトと同じです

【携帯電話用】<https://opac.niigatacitylib.jp/k>

<携帯用QRコード>



## Leaf (リーフ)

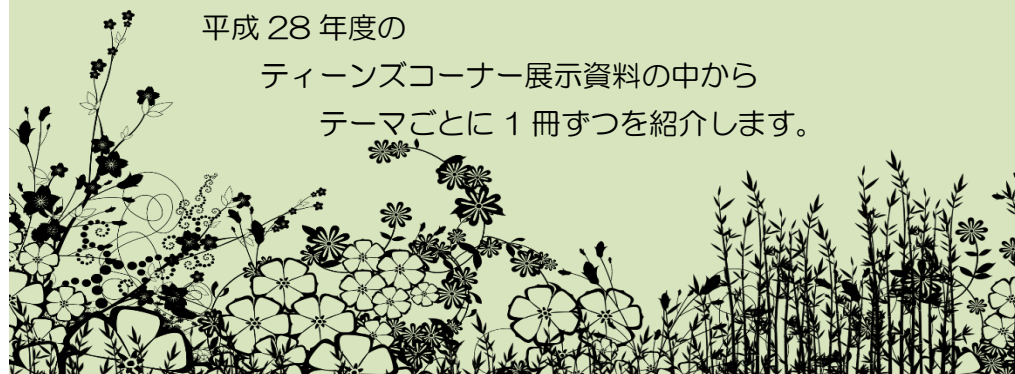
～ティーンズブックリスト No.14～

## テーマ別おすすめの本 2017

平成28年度の

ティーンズコーナー展示資料の中から

テーマごとに1冊ずつを紹介します。



## ファンタジーへの旅

### 『鬼の橋』

伊藤遊/作 太田大八/画 福音館書店 (Y913 イ)



平安時代。少年 篁<sup>たかむら</sup>は、大好きな妹を自分の不注意から死なせてしまった。後悔のあまり、現世とあの世の間に架かる橋に辿り着くが、橋の番人をする將軍に「まだ渡る資格がない」と追い帰されてしまう。何度も橋の手前と現世を行き来しながら、辛い運命を抱えそれでもたくましく生きる周りの人たちと関わるうちに、少しずつ大人になっていく。実在したおののたかむら小野篁という人物を主人公にしたファンタジー。



こちらもおすすめ

『ゲド戦記』 ル=ガウイン/著 清水真砂子/訳 岩波書店 (Y933 ル)

## メディア化された本

### 『走れ、走って逃げろ』

ウーリー・オルブ / 作 母袋夏生 / 訳 岩波書店 (Y929 オ)



8歳のユダヤ人少年は、名前を変え、素性を隠し、たった一人でナチスから逃げ続ける。逃げて逃げても、小さな体に過酷な運命が容赦なく次々と襲いかかる。想像を絶する状況の中、少年はそれでも決してくじけず生き抜いていく。第二次世界大戦下で起きた実話をもとにした小説。こんな事もうあってはならない、と改めて思い知らされる。邦題「ふたつの名前を持つ少年」で映画化。

こちらもおすすめ

『理由』 宮部みゆき / 著 新潮社 (Y913 ミ)

## 旅にでかけよう

### 『自分の仕事をつくる旅』

成瀬勇輝 / 著 デイスクヴァー・トゥエンティワン (Y290 ナ)



旅の目的は様々だが、多くは観光や交流といった漠然としたものになりがち。しかし、この本の作者が伝えたいことは「テーマを持って旅をすること」のススメ。それを実践してきた“旅プロデューサー”たちが紹介される。人それぞれにこだわりのテーマがあって面白い。作者自身がテーマを持って1年間世界中を旅した経験から、これから旅をする人へのアドバイスがぎっしり詰まっている。

こちらもおすすめ

『鉄道ひとり旅入門』 今尾恵介 / 著 筑摩書房 (Y686 イ)

## スポーツの力 応援の力

### 『タスキメシ』

額賀 滯 / 著 小学館 (Y913 ヌ)



長距離選手として将来を期待されていた真家早馬(高3)は右膝を骨折しリハビリに専念。同じ陸上部の弟春馬(高1)や親友・ライバルたちは、早馬が復帰することを心待ちにしていた。しかし早馬は料理研究部の井坂都(高3)と料理に没頭し、3年生の間では、「放課後女子と2人きりで料理を作っている」という噂が広まる。期待・願い・嫉妬・羨望、料理を作る人・食べる人。箱根駅伝を目指す青年たちの様々な思いが交錯する。

こちらもおすすめ

『フュージョン』 濱野京子 / 著 講談社 (Y913 ハ)

## Feel the art

### 『日本の色』

コナ・ブックス編集部 / 編 平凡社 (Y757 ニ)



日本の伝統色を中心に、色見本と名前の由来など解説を付け紹介。その数なんと211色。桜鼠、木賊色、東雲色…。色の名は難しい漢字ばかりが並ぶ。読みの難しさと色の美しさのギャップを眺めるだけでも楽しい。色の名は、身近な動物、植物、情景などから表している。同系色の色彩の微妙な違いを表現できる日本の四季、自然の美しさに驚かされる。

こちらもおすすめ

『仏像のひみつ』 山本勉 / 著 川口澄子 / イラスト 朝日出版社 (Y718 ヤ)